

12月の基調判断 新型コロナウイルス感染症の再拡大により、足元では一部に停滞感もみられる

製造業	➡	持ち直しの動きが一服
観光	➡	持ち直しつつあるが、先行き不透明
小売店販売	➡	弱含み
乗用車販売	➡	横ばい

住宅着工	➡	横ばい
公共工事	➡	横ばい
雇用	➡	高めの水準であるものの、弱い動き
企業倒産	➡	低水準で推移している

[直近の3ヵ月(10月~12月)の変化の方向] ➡上向き ➡横ばい ➡下向き

注) 小売店販売は、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア、ホームセンター、家電大型専門店の販売動向

大分県の主要経済指標の動き

	2019.10	11	12	2020.1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
鉱工業生産指数	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	—
小売店販売額	●	●	●	○	○	●	●	○	○	○	○	●	○
乗用車・軽乗用車販売台数	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
新設住宅着工戸数	○	○	●	○	○	○	●	●	○	●	●	○	○
公共工事保証請負額	○	●	○	○	○	○	●	○	○	○	●	○	●
ホテル宿泊客数	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
新規求人数	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
企業倒産件数	○	○	●	●	●	○	●	●	○	○	●	●	△
プラス指標の割合	50.0	25.0	12.5	37.5	37.5	50.0	0.0	25.0	50.0	37.5	12.5	25.0	42.9

注) 1. 指標は前年同月比較 ○=前年比好転 △=前年並み ●=前年比悪化

2. 鉱工業生産指数は公表日の関係から最新月「—」表示

3. 小売店販売額は、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア、ホームセンター、家電大型専門店の合計

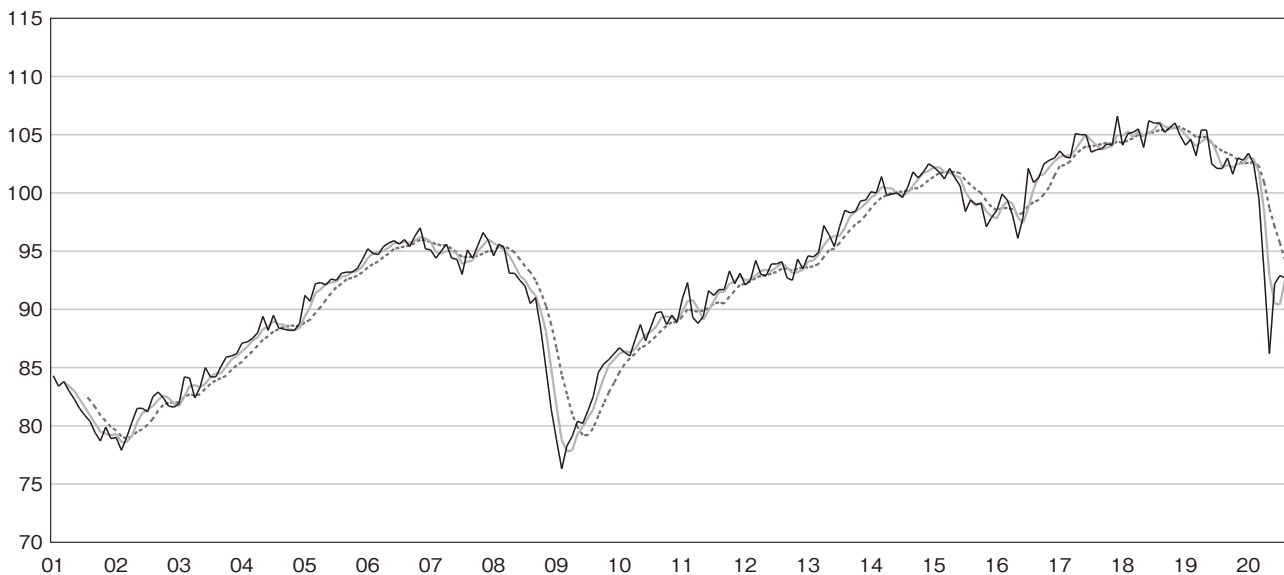
4. 公共工事保証請負額は西日本建設業保証分

5. ホテル宿泊客数は県内宿泊施設の計

DKK 指標 (2020年9月)

(2015=100)

—— DKK指標 —— 3ヵ月後方 7ヵ月後方



注) 3ヵ月後方移動平均は足元の変化をつかみやすく、7ヵ月後方移動平均は変化が定着しつつあることを確認する値。

*本指標は、大銀経済経営研究所オリジナルの景気指標です。大分県経済の把握に重要と判断した指標についてCIモデルによる分析を通じて算出したものです。

DKK 指数 (CI) によると、9月の指数は前月比▲0.4の92.3と2ヵ月連続で低下しました。項目別では、「百貨店・スーパー・専門量販店販売額」や「雇用保険初回受給者」、「新車販売台数」などがマイナスに寄与しました。